

## 県民意見の反映状況について

宮 城 県

平成20年度に行った政策評価及び施策評価において、提出のあった意見の概要及びその反映状況は、以下のとおりです。

### 記

- 1 意見募集期間  
平成20年6月11日（水）～平成20年7月10日（木）〔30日間〕
- 2 意見提出件数  
12件（1人から提出）
- 3 意見の整理の考え方  
政策ごとに意見を整理
- 4 提出された意見の概要及び反映状況

	分野	政策・施策名	意見の概要	評価結果	意見の反映状況
1		県民意見の募集方法について	<p>・「意見を募集していること」をもっとアピールしてほしい。この行政評価は、県のビジョン、つまり県の骨格になっているはずで、県のほとんどの部署に関係するもの。県ホームページのトップページの「各種募集」の中に入っているべきものと思われる。トップページに、目立つような一項目があってもおかしくはないのではないか。県民のほとんど、企業の多くが、どこかの政策・施策に関わる、あるいは関心があるはず。その部分だけでも意見をもらえるようにアピールしてはどうだろうか。意識調査等で、（県が何をしているか）わからないという意見が多いのも、アピールの仕方が足りないからではないか。</p>	—	<p>・来年度の意見募集では、いただいた御意見を参考に、ホームページを活用する等、積極的に呼びかけていきたいと考えています。</p>

	分野	政策・施策名	意見の概要	評価結果	意見の反映状況
2		県民意見の募集方法について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見募集の締め切りは、できれば政策評価部会が終わってからにして欲しい。傍聴すれば担当部署の説明を聞くことができるので。今は傍聴する人が少ないにしても。部会を傍聴できることもアピールし、傍聴する人も増やすべき。</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度の意見募集期間については、いただいた御意見を参考に検討していきます。</li> <li>また、部会の傍聴については、ホームページ等を活用し、積極的に呼びかけていきたいと考えています。</li> </ul>
3		県民意見の募集方法について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「出前講座」で、「行政評価」のメニューを「132ビジョン」の説明の中で行うほかに、つくって欲しい。</li> <li>また、取りまとめが終わった後に、結果報告を開催して欲しい。来年は意見を出そうという人が増えるように。</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みやぎ出前講座に「行政評価」のメニューを作り、その中で結果報告も行っていきたいと考えています。</li> </ul>
4		県ホームページのトップページのメニュー構成について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できれば、「県政情報」の項目のひとつに、「県のビジョン」があってもおかしくないと思う。行政評価を行う際に、県のビジョンはどうなっているのかをすぐに見ることができる。また、県はこんなビジョンがあることを多くの人に知ってもらうことにつながる。</li> <li>(計画・プラン・構想の中とは別に、入り口をつくるべき)</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いただいた御意見を参考に、県ホームページのトップページ「県政情報」の項目に「宮城の将来ビジョン」を新たに追加し、アクセシビリティを向上させます。</li> </ul>
5		県民意識調査について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「県民意識調査の結果」は、意見募集開始時に発表してほしい。「県民意識調査の結果」がホームページにアップされたのが7月1日。政策評価・施策評価の中に県民意識調査の数値が出されているので、どのような調査だったかを詳しく見るために意見募集の開始時には結果もアップして欲しい。あるいは、結果がアップされる日をそのときに示しておいて欲しい。(ホームページを頻りにチェックするわけではないので)</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度は意見募集開始時に調査結果の公表ができるように努めます。</li> </ul>

	分野	政策・施策名	意見の概要	評価結果	意見の反映状況
6		政策評価・施策評価基本票について	<p>・県でいろいろな計画があるが、それとのつながりがわかるような表記が欲しい。「関連する計画」という項目が欲しい。具体的な政策・施策について、それぞれの計画等の審議会等で、検討されているものもあるので。そちらで検討・評価されているものは、それらの審議会の議事録等が参考にできるので。施策に関する社会経済情勢等の状況（計画等策定の状況）の中に、文言ではいっているものもあるが。</p>	—	<p>・関連する計画等がある場合は必要に応じて基本票に記載していますが、来年度以降、基本票の記載内容の充実に努めます。</p>
7		政策評価・施策評価基本票について	<p>・継続・見直しの判断がわかりにくい。「順調・概ね順調」だから「継続」なのか、それとも「見直しが必要（見直しが可能、縮小）」なのか。「やや遅れている・遅れている」から、今まで同様「継続」しなければならないのか、「見直しが必要」なのか。「見直す」というのも、「縮小」「拡充」の両面があるので、その違いがわかるような表記があるといい。（基本票の要旨P. 6～9）該当する評価シートを見ればいいのかのだけれど、ここでもわかると見やすい。</p>	—	<p>・事業構成の方向性に係る継続・見直しの判断については、「方向性の理由」の欄に記載していますが、来年度以降、基本票の記載内容の充実に努めます。</p> <p>なお、基本票の要旨6ページから9ページの一覧表につきましては、誤解等を避けるため、必要最低限の情報を掲載しています。見直し内容の詳細については、各評価シートを御覧願います。</p>
8		政策評価・施策評価基本票について	<p>・基本票の要旨のP. 4「遅れている」が該当なしであり、「やや遅れている」が4件あるので、ここで記載してほしい。（なにが遅れているかわかるように）</p>	—	<p>・いただいた御意見を参考に、基本票の要旨の見直しを行います。</p>

	分野	政策・施策名	意見の概要	評価結果	意見の反映状況
9		政策評価・施策評価基本票について	<p>・事業分析シートの、区分、重点・非予算の意味がわからない。「非予算的手法」の中にも、事業費のあるものとならないものがある。基本票の用語集などがあると便利。</p>	—	<p>・「重点」とは宮城の将来ビジョン行動計画の期間内に県として優先的・重点的に取り組む事業のこと、また、「非予算」とは非予算的手法（予算額がゼロあるいは小額であっても、行政が有している規制力、調整力、信用力などを発揮したり、県の財産、情報や職員のアイデアなどを最大限活用することで大きな成果を上げていこうとする手法）のことを示しています。用語の説明等、基本票の記載内容の充実に努めます。</p>
10		政策評価・施策評価基本票について	<p>・効率的かどうかは、費用だけでみていいものか。県職員の人件費が含まれていないが、外部に委託する場合は、人件費を含むものとなる。たとえば、「施策28」の「事業名 マイバッグキャンペーン」は、非予算的手法だからか、効率性の記述がないが、職員のかかる時間が軽減されるかどうかで記述可能なものもあるのではないか。事業費があるものであっても、マンパワーの効率化についての検討は重要と考えられる。その上で、必要なものは増やすことも必要ではないか。たとえば「施策13 次代を担う子どもを安心して生み育てることができる環境づくり」の「子ども虐待対策事業」は、「ひとりあたり200件以上」なので「効率的」とあるが、今の社会情勢から見ると虐待への相談が増え、かつ内容も変化することが予測され、相談する人のスキルアップをはかる時間の確保のためにも、人を増やすことも必要になるだろう。</p>	—	<p>・事業分析シートの効率性については、単位当たり事業費の状況から見て、事業が効率的に行われたかという視点で行っています。非予算的手法については、事業費がゼロ又は小額額のため効率性の記述をしていません。</p> <p>効率性の評価方法については、引き続きより適切で、分かりやすい説明が行えるような工夫に努めていきたいと考えています。</p>

	分野	政策・施策名	意見の概要	評価結果	意見の反映状況
11	人と自然が調和した美しく安全な県土づくり	(政策番号 11) 経済・社会の持続的発展と環境保全の両立 (施策番号 28) 廃棄物等の 3R (発生抑制・再使用・再生利用) と適正処理の推進	事業名「マイバッグキャンペーン」 ・実施団体数は、1店舗が1団体なのか？(たとえば”宮城生協”で1団体か、宮城生協〇〇店で、1団体か)	—	・実施団体数の捉え方については、店舗の数ではなく、商工会やみやぎ生活協同組合のように協力団体の数を実施団体数としています。
12	人と自然が調和した美しく安全な県土づくり	(政策番号 11) 経済・社会の持続的発展と環境保全の両立 (施策番号 28) 廃棄物等の 3R (発生抑制・再使用・再生利用) と適正処理の推進	事業名「3R推進普及啓発演劇上演事業」 ・学校ではどのような形で実施されているのか。総合学習の一環・学校行事・PTA行事か。小学校であれば何年生が対象なのか。4年の社会や、5、6年の家庭科でゴミについて学ぶと思うが、そことの連携が図られているか。学校の中での3Rはどうなっているかなどのアンケートをして、効果をチェックすると思う。学校としては費用がかからないので、要望が途切れないと思われるが、以前に比べて、3Rについては、かなりマスメディアでも啓発され、(特に、マータイさんによるMOTTAINAIをきっかけとして)3Rについて話のできる人・NPOも増えているはず。普及啓発については、内容を検討し、次の段階にうつってはどうか。たとえば、3R授業を公募して助成(たとえば10万円の補助×20校または先生)し、その結果を県のホームページで紹介するなど。先生のスキルアップにつながればメリットは大きい。	—	・当該事業は、県内の小学校等においてごみに関する理解を促す内容の子ども向け演劇を上演し、子どもたちに楽しみながら環境問題を学んでもらい、家庭や地域におけるごみ減量化やリサイクルの実践拡大を図ることを目的に実施しています。 本演劇は、主として、小学校の中・高学年を対象としたシナリオとなっていますが、低学年の子どもたちや保護者等にも観劇していただける内容となっています。観劇後は、副読本を活用したフォローアップ授業も行っており、さらに、子どもたちに対してアンケートを実施し、その集計結果については、今後の教育の場における3Rの取組に活用していただくよう依頼しています。なお、本演劇の上演等につきましては、環境教育の一環として活用いただいているものと捉えていますが、その位置づけや他教科との連携については、各学校の判断により対応いただいています。 循環型社会の形成に向けた当該事業を含む廃棄物の3R

	分野	政策・施策名	意見の概要	評価結果	意見の反映状況
12	人と自然が調和した美しく安全な県土づくり	(政策番号11) 経済・社会の持続的発展と環境保全の両立 (施策番号28) 廃棄物等の3R(発生抑制・再使用・再生利用)と適正処理の推進	(前ページから続き) そして、必要な費用以外を他の事業に振り分けてもいい頃かと思う。県としては、市町村がやりにくい、事業者に対する事業をもっと拡充してほしい。	—	(前ページから続き) と適正処理の推進の施策に対しては、県民の関心度(重視度)が非常に高くなっていますので、県では、廃棄物や環境問題について興味・関心があり勉強したい方に対して、みやぎ出前講座事業の中で、3R講座を実施しているほか、今年度から新たに、宮城県環境教育リーダー(教えてエコ先生)派遣事業を始めています。 今回御提案のありました御意見等につきましては、今後の3R事業の推進の際に参考とさせていただきます。